

令和7年3月5日

世田谷区立東深沢小学校
校長 奥長 英樹 様

世田谷区立東深沢小学校
学校関係者評価委員会

学 校 関 係 者 評 価 委 員 会 報 告 書

1 調査の実施方法

(1) アンケートの作成・配布（11月下旬）

＜対象＞・児童（全学年） ・保護者（全学年・児童数） ・地域（町会/商店会/その他）

(2) アンケート実施（紙面回答）回収（締切り：11月26日）

(3) 校内においてデータ集計作業（12月8日完了）

(4) 集計結果に関する成果と課題を共有した。（令和7年1月10日）

(5) 学校関係者評価委員会（令和7年1月18日）

令和5年度学校関係者評価アンケート結果を校長より報告。集計結果の概要を確認し、検討事項等について共通理解を図った。

(6) 学校関係者評価委員会（令和7年1月29日）

各委員より、集計結果の数値傾向を踏まえ意見を出し合い、課題を検討した。

(7) 学校関係者評価委員会（令和7年2月上旬）

委員会にて指摘のあった点を取りまとめ、修正・追加・削除を行い、報告書の原案を作成した。

(8) 学校関係者評価委員会（令和7年2月15日）

学校運営委員会にて、学校関係者評価概要説明。

各委員と報告書の最終的な確認を行う。

2 アンケート結果の分析

○ 保護者回収率

今年度 94.3% 昨年度 90.9% 一昨年度 47.5%

○ 地域回収率

今年度 60.5% 昨年度 65.9% 一昨年度 75.6%

【各アンケート項目について】

1 学習指導について

新たに「学ぶことが楽しい」という項目が加えられたが、その数値は他の項目に比して低く、高学年ほど低下する傾向が見られる。しかしながら、全体的には肯定的な評価が多く、学習を楽しむ児童が多数を占める。「楽しい」という概念が広範であるため、単なる数値のみでは実態を正確に把握することが難しい。学習内容の高度化に伴い、「楽しい」と感じる機会が減少することも一因と考えられる。一方、低学年では純粋に学習を楽しむ傾向が顕著である。昨年度と比較し、「とても思う」との評価が微増しており、先生方の努力がうかがえる。

2 生活指導について

児童に比べ、保護者の数値が下がっている。来年度土曜日がなくなることを考えると少し不安に感じるので、授業の進捗状況など学校の様子を細かく保護者に伝える必要がある。ただ、全体的に低い数値ではない。特に1年生の生活指導については、児童一人一人がもつ特性等を早期に把握し、今年度同様に教職員が組織として対応する必要がある。そのような状況も踏まえ、来年度からはプレクラス制度を実施する予定とのことなので、期待をしている。

3 学校行事について

「学校行事が楽しい」との回答は93%、「達成感がある」との回答は88%と、いずれも高水準を維持している。児童からも学校行事を楽しむ声が多く寄せられている。先生方が行事の目的を明確にし、学年および学校全体で取り組んでいることが、こうした成果につながっている。今後もこの取り組みを継続し、より充実した学校行事を提供できるよう努めて頂きたい。

4 キャリア教育について

「自分の生き方や将来について考える授業がある」「区立中学校に関する情報が提供されている」といった項目の評価は比較的低調である。キャリア教育は単なる職業教育ではないため、本校の方針を明確に示した上で意見を求めることが大切である。ただし、以前に比して肯定的な評価は増加傾向にある。保護者による「子どもの生き方や将来について考える授業をしている」との評価も低く、25%が「分からない」と回答している。個人面談時に配布するキャリアパスポートの活用や、校長の考えをより明確に伝える工夫が求められる。

5 先生について

児童の「先生たちは、丁寧に指導してくれる。」の肯定的評価が93%、保護者の「本校は、丁寧に指導している。」の肯定的評価が86%と、どの項目も肯定的評価が高い。特に低学年では先生方が一人一人を手厚く見ている結果ではないか。また、高学年で若干数値が下がるのは、子供に解決を促すべきところなどはあえて先生が距離を取るなど、発達段階や学年に応じた児童とのかかわり方の違いが表れているのだと思う。

6 全般について

毎年話題になるが、「私は塾で学習している」の項目は疑問である。児童の「学び舎の中学校に行ったり、中学生が来たりする機会がある」は、肯定的評価が28%と比較的低い。やはり、中学校との関連が出てくるので、数値としては低い。計画委員や生徒会の児童・生徒など一部の子たちの関りはあるが、その他の子は関りが少ないというのが現状である。アンケート前に行っていれば、数値に反映されるが。タイミングの問題もあるのではないかな。高い数値もところもあるので、意識した取組を行えば、おのずと数値に反映される。相手があることなので、課題や問題があるという認識はない。中学生が憧れの対象などになっていると子どもの目も違ってくる。文言を変えられるなら変えてよいと思う。

7 学校からの情報提供について

全項目において地域の肯定的評価が高い。ただ、地域に関しては情報が届いているか、そうでないかの違いなので A「とても思う。」と B「思う」にそこまで違いはないのではないかと。保護者の『学び舎』の区立幼稚園・中学校について情報が提供されている」は肯定的評価が72%と他の項目と比べると低い。学び舎関係はあまり保護者には関心がないと思われるので、学校だよりをみしまの森で出すなど、学び舎に関しては工夫を続けていく必要がある。学校からの情報提供について、早急に手を打たなければならないということではない。

8 学校運営について

保護者の「本校は、保護者に学校の重点目標を伝えている。」が87%、「校長をはじめ教職員は、協力して教育活動に取り組んでいる。」が86%と肯定的評価が高い。教職員の皆さんが頑張っていると捉えてよいのではないかと。一方で、「校長をはじめ教職員は、協力して教育活動に取り組んでいる。」については、E評価（分からない）と回答する保護者が7%いるが、何をもってE評価としているのかを知りたい。地域の「学校の重点目標が明確である。」は96%と高い数値となっている。

9 家庭と学校の連携について

保護者の「私は、学校行事、PTA や地域行事などにすすんで協力している。」、「私は、今年度の学校重点目標を理解している。」の肯定的評価がそれぞれ、55%、59%と低い数値となっているが、おやじの会の方たちはかなり盛り上がりささまざまな行事に協力してくれた。頼まれればやってくれる人が多いのではないかと。（働き方が変わってきたので昔と比べると）お父さんたちの参加率が上がったのではないかと思います。学校としても保護者全体に呼びかけることはないので、学年ごとをお願いすることはあるので、数値としては低いですが、そこには保護者の、参加したいがなかなか難しい、という思いがあると思う。

10 地域との連携について

「本校は地域に情報を提供している」という項目において、「分からない」と回答した保護者が16%存在する。地域への情報提供が十分に伝わっていない可能性があるため、学校ホームページや児童を介した情報共有を強化することで改善が期待される。

11 学校の安全性について

地域の「学校は安心・安全な学校づくりを進めている。」、「学校は、安全性を高めようと地域と協力している。」の肯定的評価はともに100%となっている。これについては、直接学校と関わっている方が回答されていて、学校と関わっていない方は回答がないという状況ではないかと。地域に関しては具体的にどう取っていったらよいかというのはこれからの課題。能登半島地震がまだ記憶に新しい中でとったアンケートの数値としては高いのではないかと思います。保護者の回答についても全項目において、肯定的評価が高い。学校が災害時の対応について、4月当初に保護者に伝えていることもあり、今のところ学校は安心だと保護者は感じていると思う。

1 2 学校独自項目について

コミュニケーションについて、保護者の「私は、我が子とコミュニケーションがとれている。」の肯定的評価が97%と高い。また、児童の「私は家の人とコミュニケーションがとれている。」の肯定的評価も94%と高い。両者ともに肯定的評価が高いが、何をもって回答しているのかは考える必要がある。コミュニケーションを取れていると思っていることと、実際に取れているかどうかは別ではないか、また一方通行のコミュニケーションになってはいないか、などコミュニケーションの質については考える必要がある。いずれにせよ、話を「聴く」ということはコミュニケーションをとるうえでとても重要なので、設問を工夫するなどして、コミュニケーションの実態に迫るようにしたい。

【総評】

本校は今年で75周年を迎え、新しい学校長のもとに新年度がスタートした。年度当初の学校長挨拶で『はじめに子どもありき』の理念を核とした学校経営を推進していくことが謳われ、それが印象的であった。それから一年、東深沢小学校の子どもたちは教科学習や学校行事など、あらゆる学びの場面で生き生きと活動した。目標を自ら設定し、それに向かって行動し実現させていくようすは主体的な学びの実現そのものであった。そして、何よりも一人一人がその子らしさを発揮し、かつ仲間と作用する姿は相互に高め合いながら成長していく過程にあることを感じさせた。

アンケートの結果によると、本校に対する評価は全体的に高く、学習指導・生活指導・学校行事・安全性など、多くの項目で肯定的な意見が多数を占めている。特に、先生方の丁寧な指導や学校行事への積極的な取り組みは児童・保護者双方から高く評価されており、「ひがしの教育」への期待や信頼が高いことが理解できると同時に学校運営の質の高さが伺える。このまとめから明らかなのは、本校が児童にとって安心して学び、成長できる環境が整っている学校であるということである。教職員の協力体制が強固であり、保護者や地域と連携しながら学校全体で教育活動に取り組む姿勢がこの環境を支えていると言える。

展覧会後、学校長は学校だよりに次のように記している。

「子どもたち一人ひとりが自分の色を大切にし、友達の色も認め合い、日々の学びの過程で輝き合い成長していくこと、それは学校の大切な営みだと思います。子ども一人一人のその子らしい輝きと、子どもたち同士の響き合い、これからもずっと楽しみです。」（一部抜粋）

この思いを私たち委員も共有し、東深沢小学校の未来をずっと楽しみにしたいと思う。

最後に、地域の方々がいつも変わらずに温かく東深沢小学校の子どもと教育を見守り、支えて

くださっていることに心から敬意を表し、感謝申し上げたい。